

屋島活性化基本構想に基づく、平成25年度取組状況および26年度事業の方向性【情報発信・施策調整部会】

No.	施策・事業名	平成25年度取組状況	平成26年度事業の方向性	備考
07	高松市景観計画の策定(変更)	現状調査, 景観審議会の開催等	景観形成重点地区追加指定検討	
08	屋島陸上競技場の再整備	建設工事着手予定	建設工事	
12	屋島に関する情報発信力の強化	・各団体におけるホームページの更新等 ・所属団体における会報の発刊予定 ・屋島関係情報ポータルサイト年度内開設予定 ・パンフレット・マップの作成予定	・情報更新等 ・パンフレット・マップの見直し, 増刷	
20	屋島陸上競技場等公共施設内や鉄道駅舎内での写真・マップの展示	・JR屋島駅での資料等の展示 ・関係機関・事業者との協議, 展示等の依頼予定	公共施設・駅舎等でのマップ等の展示	
32	ビジターセンター[ガイダンス施設]の整備	H25.9.4「屋島山上拠点施設整備等検討懇談会」の設置(3回開催予定)。今年度中に「屋島山上拠点施設基本構想」策定予定	基本設計等	
33	便益施設等(史跡等案内板・東屋・ベンチ・トイレ)の整備	・現状調査 ・関係機関・団体との協議 ・緊急性の高い老朽化した施設の改修予定 ・整備方針についての検討	・関係機関・団体との協議 ・整備計画の策定	

No.	施策・事業名	平成25年度取組状況	平成26年度事業の方向性	備考
39	展望・芝生公園の整備	廃屋跡地の整備(4か所)	維持管理	
42	近傍エリア臨時駐車場の確保	・現状把握と課題整理 ・調査方法等検討予定	適地選定に向けた調査等	
43	登山道・遍路道等の整備	・草刈・清掃活動等 ・関係機関・団体との協議 ・現状調査等予定	・活動の継続 ・関係機関・団体との協議 ・再生計画の策定	

情報発信・施策調整部会 第2回会議での委員からの意見

No.	施策・事業名	委員からの意見
07	高松市景観計画の策定 (変更)	
08	屋島陸上競技場の再整備	
12	屋島に関する情報発信力の強化	・情報量が多いが、必要な情報は少ない。 ・屋島に限らず高松市全体のイベント情報がホームページで一覧できるようにすべき。 ・情報発信については、設計のプロデュースを考える。継続するためには、予算をかけて、しっかりとしたものをつくっていくべき。
20	屋島陸上競技場等公共施設内や鉄道駅舎内での写真・マップの展示	・マップやパンフレット類は、分かりやすく、手に取れる大きさのものを用意する。 ・各施設に、積極的に配布・設置する。
32	ビジターセンター[ガイダンス施設]の整備	・他の施設を視察するなどして、良いところを取り入れたものとしてほしい。
33	便益施設等(史跡等案内板・東屋・ベンチ・トイレ)の整備	・案内板は、外国語表記含め、ピクトグラムを使用して、シンプルな内容とし、統一ルールを定めて各設置者が整備する。 ・南嶺では、便益施設が西エリアに集中しており、東エリアは不足している。
39	展望・芝生公園の整備	
42	近傍エリア臨時駐車場の確保	
43	登山道・遍路道等の整備	
	その他	・今春は、毛虫が大量発生したが、有効な対策を考えるべき。 ・サル、猪の問題のほか、スズメバチに刺された場合の対策も考えるべき。 ・山上遊歩道に、ガードマンが巡回すると観光客が安心できる。 ・キャッチフレーズは、英語表記も用意すべき。 ・フォトコンテストは、参加者が山上で一緒に写真を撮影し、撮影のプロセスも楽しむイベントも考えてはどうか？ - また、絵画イベントなど、子どもたちに山上へ来てもらう方策を考えてはどうか？ ・兵庫県の有馬富士公園の運営は大いに参考なと思われる。

源平屋島地域運営協議会 企画専門委員会 情報部会
意見のとりまとめ

- 1、 屋島ポータルリニューアルについて
 - ・一元化を図りユーザーから分かりやすく見やすくする。
 - ・年間を通じて屋島関連のイベント情報が見えるようにする。
 - ・既存のポータルや源平関連HPとの整理・統合・連携を図る。
 - ・SNSへの対応
 - ・接続インフラの充実
 - ・多言語対応
- 2、 紙媒体について
 - ・目的に分けて整備する
 - ・プロモーション用（県外PR用のポスター、パンフレット）
 - ・PR用、（配布用総合PRチラシ、観光案内所や遠足誘致などに活用）
 - ・現地説明用
（持ち歩きしやすい総合マップ、分野別の紹介チラシ「歴史、史跡、自然など」）
 - ・SNSとの連携
 - ・多言語対応
- 3、案内サインについて
 - ・ピクトグラム（絵文字）の導入
 - ・案内表示サイン、看板の整理統合
 - ・表示の目的を明確にする
 - ・景観などを損ねないデザイン
 - ・全体の統一感とルールを明確にする（色やロゴなど）
 - ・SNSとの連携
 - ・多言語対応
- 4、多言語について
 - ・英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語、フランス語
 - ・シンプルで分かりやすい表記
- 5、情報の管理監督・運営
 - ・屋島の情報関連については一つの部署で管理監督し、運営母体を明確にして情報の集約を図る。※緩やかな管理監督

源平屋島地域運営協議会 企画専門委員会 集客部会
中間報告

1、 遠足誘致キッズプログラムについて

現在屋島地域で活動をしている団体やNPOに意見聴取を行いました。

子どもを対象として、様々な取り組みの事業は概ね理解を頂いています。

しかし、一部の団体からは、商業活動なら協力できないとの意見も出ています。

方向性としては、屋島地域の様々な資源（自然、史跡、歴史、広場、など）を活用して、多種多様な参加型のキッズプログラムの開発が必要です。

屋島活性化の方向性のPRも兼ねて、市民ボランティアセンターや市報を活用して公募しても良いとの意見もあります。

2、 キッズプログラムのPRパンフの作成について

メニューが出そろった段階で、四季とカテゴリーに分けて整理し、PRパンフを作成する。

※受け入れ可能な、キッズプログラムもない状態で、ただ単に子ども向けの屋島PRチラシを作成するのは無駄遣いとの意見もあります。

※子ども向けの屋島の資源を活用したワークショップを開催して、子ども向けに屋島の楽しさをPRした方が成果が上がるとの意見もあります。

3、 遠足誘致の運営母体と営業活動

遠足誘致活動の推進母体を何処が担うかを明確にしないと、誘致活動も受け入れ調整も実現できない。

アクションプラン案としては、行政が各学校に屋島の活性化を目的に遠足誘致活動を推進していることについて、PRパンフレットを用いてアピールすることを前提に行う。

※県内の校長会や教頭会、各学校長宛ての協力依頼、各学校回りなど

その後で、民間事業者の協力を得て具体的な営業活動協力を要請する。

※旅行会社やバス会社

受け入れ団体との調整については、商業活動との誤解を招くこともあるので、民間事業者では困難との意見も頂いています。プログラムの受け入れ調整のマネージメントを何処が担うのか仕組みづくりが急がれる。

4、 遠足バス、交通費の助成金

12月の最終部会で意見集約を行う。

誘致のインセンティブとしては、必要との意見もあります。

1 情報発信について 現状存在する屋島関連ポータルです。まずはご覧ください。
(ア) http://www.yashima-kanko.net/ (イ) http://www.h4.dion.ne.jp/~yashima/ (ウ) http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kankou/ (エ) http://www.e-yashima.jp/ (オ) http://www.e-yashima.jp/yoshitune/ (カ) http://www.yashima-artvillage.jp/
2 上記のHPやポータルサイトについてご意見をください。
・特に(ア)と(イ) は、似たような内容であると感じた。どこか中心となるHPやポータルサイトへリンクするような方がよいのではないか。 ・同じような内容のサイトが多いので、もう少し編集に工夫が欲しい。 ・全部がバラバラでありながら、内容はダブって表示。せめて国、県、市等は一つに統一し(リンクを貼る事によって)整理すべき。 ・うどん県用、オフィシャル用に集約してはどうか。 ・一元化はすべきであるが、独自性は尊重すべき。 ・1(ア)について →トップページの画像としては、古いイメージで写真が鮮明でない。屋島の景観を最大限に写したものを起用すべき。 →屋島の歴史について、内容をしっかり興味をもつ記載が必要。 →施設・名所案内…屋島全体の地図+画面の地図を大きくする。 →交通アクセス…親切なガイドではない。 →屋島の歴史…ここが重要であり、「出来事」だけの説明だけでなく、関連場所と連動させることが観光意欲の向上につながる。 ・イベント情報…終引したものは、早めに除去し、最新情報の掲載が重要。
3 現状の屋島関連情報発信、屋島PRについてご意見はありませんか？
・屋島に来て、屋島を歩いてみようかといった場合、詳しく示したものが少ないように思える。また、屋島での行事や屋島寺での催し物として、カレンダー的なものがあれば、予定も立てやすいのではないかと思われた。 ・瀬戸芸に屋島も入れ込む。(沙弥島も陸続きでありながら参加しているので、屋島の参加は可能だと思う。ベネッセコーポレーションへの働きかけを香川県、高松市が一体となって働きかけることが重要。 ・地元の人たちが無関心なのか、もう少し地元参加で屋島のPRが必要。 ・メディアを通じて定期的に、四季ごとの屋島の観光PRを図る。 ・県外大手旅行社(京阪神・中国・九州各支店)への営業宣伝に力を入れるといいと思う。 ・各種イベントが開催されても、直接の関係者しか知らない場合が多い。 ・屋島および周辺でのイベントが、一元化されたスケジュール表がほしい。 ・“玉藻よし讃岐の国は…”屋島単独でなく香川の観光宣伝に便乗すべき ・国立公園内最大の屋島を宣伝すべき ・歴史にからめるべき ①屋嶋城 ②千間堂 ③屋島寺 ④不喰梨 ⑤西行歌碑 ⑥源平古戦場 など ・HPやパンフ等では表現の仕方や見方も違ってくることから、これらについては、アンケートではなく継続的に審議していきたい。
4 現状は各分野ごとに分かれて情報サイトが構築されているので一元化を図るべきと思いますがご意見はありませんか？□
・屋島としてここを見ればよいというサイトの一元化は必要だと思う。そこから各サイトへリンクできるようにすればよいのではないか。 ・一元化を諮ると情報量が増えるが、サイトの検索が複雑化する恐れがある。アクセス・検索をしやすようにする工夫が重要。 ・一元化を諮るとスタイルも一元化しやすいのでユニークなサイトの開発をする努力が求められる。 ・一つだけ詳しく書いて、他はそれにリンクを貼ることで解決できると思います。…情報が錯綜する恐れがあるため。 ・一元化は図るべきだと思う。問題はどこに一元化を図るかで、その一元化を図った管理者が、しっかりと更新していかないと、また、現状のように情報サイトが乱立してくると思われる。そして、また一元化の議論に戻る。地元タウン誌など、広報に長けた企業に委託すべきだと思う。 ・一元化は是非必要であるが、活用が不十分であり、未熟である。 ・特にイベント情報の未周知が多く、未掲載をなくす必要がある。 ・よりよいものを創り出すため、無駄を省くために必要。 ・サイト内容を検討する必要があるので、あわせて見直すということに賛成。 ・市のHPは、説明が少ないので、わかりにくい。 ・屋島をサイトで、新しく表現することをすすめてほしい。
5 屋島のPRポスターPR用のチラシなど、PR媒体やPRの仕方についてご意見はありませんか？
・PRポスターについてはマンネリ化している。もう少し切り口を変えたデザインの検討が必要。たとえばダイヤモンドヘッドを超えるキャッチコピーや上から見た新しい形の屋島もデザインに入れるなど。 ・島の存在を地球規模で扱う。民族の大移動から始まる瀬戸内海に面する屋島の存在を体系的にPRする。 ・瀬戸芸に屋島も入れ込む。(沙弥島も陸続きでありながら参加しているので屋島の参加は可能だと思う。 →ベネッセコーポレーションへの働きかけを香川県、高松市が一つとなって働きかけることが重要。 ・ポスターやチラシは相手に伝わってこそそのツールである。一部の広告会社に丸投げは絶対しないようにすべき。 ・もう少し、現代風にしたものがいいと思う。現在のポスター・チラシではありふれているため、観光客等の目を引き付けるものがない。 ・大河ドラマ「義経」が放映された時のように、屋島を訪れる理由がはっきりしている場合はよいが、屋島の外観をPRして屋島に来てくださいは、逆な気がする。外観が見たければ、JR高松駅周辺でも見える。以前、多くの人が訪れた時代の屋島の魅力とは何だったのか知りたい。また、早急にSNS専用サイトをたちあげるべきだと思う。 ・屋島のPRポスターがないので、毎年、作成すべき ・屋島の総合パンフレット(観光・水族館・巡礼)がほしい。 ・源平の里を取り組んだ広域パンフレットがほしい。 ・費用対効果を考えるべき(①TVコマーシャルを県、市が費用負担して放映。②旅行業者の売り込みを図る。) ・受け入れ態勢を考えていないと、来た人に失望感を与えるし、口コミで広がる可能性をなくする(ホテル、売店、その他施設(案内板、トイレなど)について、企業の協力・賛同を得る必要があり、その意見を聴く。))。
6 来訪者に屋島や周辺地域をご案内するパンフレットについてご意見はありませんか？☑高松市所有の源平の里パンフレットが現存する。□
・もう少し歩いて巡るためのものやドライブで巡る詳しい地図などがあってもよいと思う。 ・パンフレットのガイドマップが見にくいことと面白みがない。 ・わかりやすく簡素なパンフレットがよい ・ガイドマップが詳しいのはよいことだが、空白部分への物語性など工夫が必要。 ・もう少しデフォルメするなど見やすいデザインに検討する。 ・近年は全てがめまぐるしく変化している。パンフレット中には閉店してない店もあるし新規開店で記載のない店もある。今後はもう少し、少量印刷で更新頻度をあげ実態に近いものを提供すべきです。 ・遍路の人々は、車で寺に参り、すぐ引き返しているため、屋島山上からの眺望の素晴らしさを味わってもらえていない(談古嶺、獅子の嶺岩) ・屋島寺に、パンフレットを常備して配布してもらう。 ・よくできていると思う。屋島だけを案内するよりも、屋島を訪れる理由が出てくる。ただし、歴史に興味がない人にはあまり有効でないため、歴史、映画のほか、アートや遊びなどの情報を増やしてはどうか。持ちやすいハンディサイズのガイドブックがあればいいと思う。 ・JR屋島駅の観光案内所にて、元気YASHIMAを創ろう会発行の「源平の里」と「てくてく・りんりん地図」を配布している(年間5千部程度)。 ・配布先を、旅行業者、他の観光案内所に送付依頼する。

7 屋島山上駐車場, JR屋島駅, ことでん屋島駅, 道の駅源平の里むれなど, 最寄りの施設での観光案内看板についてご意見はありませんか？ ・整備を行っていくのであれば、デザインを統一した方がよいのではないか。 ・屋島への個人観光の底辺拡大は、公共交通機関の充実がはずせない。 ・公共交通機関駅が汚い感じがする。古いのは価値があるが、汚い感じがするのは掲示物等がスッキリと整理されていないためだと思う。 ・JR高松駅には観光案内所が設置されているが、閉まっている時間が長い。また、駅構内、入り口付近に掲示されている案内図は大変お粗末なものである。 ・琴電屋島駅においては、JR駅よりもっと標示、対応が悪く、見てすぐ解るような標示等が見当たらない。 ・他の施設でも、もう少しインパクトのある標示物が欲しい。 ・各施設においてグリーンを置いたりベンチの色も明るいお洒落な感じにする。 ・山上の案内板には観光ボランティアガイドの説明をいれるべき。 ・大きな字体で、はっきりした観光案内看板がよい。 ・コンビニ、食事可能店の場所表示が必要。 ・地図があり、イラストがありで、個々の案内板に問題があるとは思えないが、屋島や周辺地域を一体化して売り込むのであれば、共通の地図にして、「あなたは今ここです。」的なものがわかりやすいと思う。
8 屋島の関連情報の情報発信や見せ方について工夫やご意見はありませんか？☐ポータルサイト, ☐ポスター, ☐パンフレット, ☐SNS, ☐メディアなど☐ ・壁紙等 ポータルサイトでの提供グッズを充実する。 ・屋島を始め県内にある昔話のサイトをつくり幼児・小学生等に配信する。 ・一週間に一度、屋島山上でサテライトスタジオ(AM, FM交代で)を作ればもっと盛り上がると思う。
9 SNS(ツイッター、Facebookなど)は、昨今では非常に有益な情報発信媒体になっています。訪れた人がリアルタイムで驚きや感動、時にはクレームを不特定多数に発信してくれます。この仕組みを活用して訪れた人だけでなく、屋島のファンであり、屋島の魅力を知り尽くした人による、人から人への情報伝達について何か工夫やご意見はありませんか？ ・屋島、瀬戸内海等の壁紙の提供サイトを設ける。 ・フェイスブックなどで屋島のイベントや写真等をアップしてくれるグループを募集し、活動を依頼をする。 ・企業支店長等に観光大使をお願い済みだが、もう少し活用方法などを考える。例えば観光大使を県人会を招くとか紹介した場合のお礼などにギフト券や香川物産品など実用的なお礼を継続する。各地の県人会、笑理会などをフル活用するべきである。 ・リンク先の変更などがあった場合、こまめに修正をすべき。 ・使い方がわからないとどうにもならないので、市民向けSNS活用講座、中学校の授業に取り入れるなどしてはどうか。
10 高松市民が愛着と誇りを持つて屋島を目ぼし、市民目らが情伝達者になって頂くために有効な手段はありませんか？ 記載例: 総合型スポーツクラブのような屋島ファンクラブ創設など。 ・例えば、先般実施したクラブピアの植え付け等の活動や、元気YASHIMAを創ろう会などの地域ボランティア活動を通じて、大々的なPRを図り、応援団的なものとして広げていく(高松市民と他地域のふれあいづくりとして)。 ・保育所から高校まで遠足は必ず屋島をいれることとする。 ・特別授業において、香川県や四国の観光についての授業を必ずいれる。 ・香川大学を始め、県内大学に観光学部を設置するよう働きかける。難しい場合は、マネジメント科などで設置する。 ・記載例的なものであれば屋島での開催でありたい。 →山上での「大声選手権大会」や現代版扇の的で「ダーツで扇の的・大会」を催せば選手やその家族知人が当事者となって情報発信してくれる。 ・屋島の魅力を発信している地元の施設はどこなのか？地元の人にも見えてこない。拠点施設を設け、地元の情報等を取り入れながら地道に長期的に取り組んでいく必要がある。 ・市民による屋島再生応援隊(仮称)の結成 ・愛着と誇りを持つには、行かなければならないと思う。水族館があるのであれば、動物園とまではいかずとも動物とふれあえる施設、自然が豊かな北嶺を活用してオリエンテーリングなど、家族でも訪れることができる屋島を目指せばいいと思う。近隣や市外出身者の人たちにも重きを置き、まず、屋島に来てもらう、興味を持ってもらうことが肝要だと思う。 ・市民ファンクラブの創設 ・屋島ファンドの設立・・・資金援助 ・市内の小学校の児童は少なくとも一回は、山へ来てもらい(費用負担は市)、ガイドをつけ屋島のよさを知ってもらい、家族や周りの人々(親戚)にひろめてもらう。 ・中学生、高校生にも可能性あり…国は「郷土愛」を教育に盛り込もうとしている。私は屋島を案内する時“日本一(必然的に世界一)”と話しかけています(中河余一の「愛恋無限」の作中人物に言わせています。) ・元気YASHIMAを創ろう会のボランティア活動をしながら、ますます、屋島に生まれ育ったことを感謝して誇りに思っています。
11 周辺施設との連携や周辺施設を活用した屋島PRについてご意見をください。 ※屋島陸上競技場, 四国村, わらや, 石の民俗資料館, ジョージナカシマ記念館, 庵治観光交流館, 歯アート美術館, 太古の鼻オートキャンプ場, 道の駅源平の里むれなど ・屋島での自然観察や歴史探訪、里山歩きといった活動をもっと行っていただきたい。 ・スタンプラリーを行ない段階に応じて景品を渡す。 ・季節ごとに各施設が同じテーマでイベントを行う。それを瀬戸芸と重複させるなどコラボをして集客力をUPさせる。また、単独イベントだけでは集客は限界がある。 ・歯ART美術館他は昔、志度湾共栄圏として栄えた場所なので(志度寺の海女の玉取り縁起等)行政の都合で屋島と連携は無理がある。むしろ、平賀源内記念館や志度寺との連携が自然である。 ・庵治観光交流館はせっかく映画ロケセットを残しているのだから「エキストラの養成所」やアマチュア劇団の練習所として訪れた人が見たり一緒に演技をしたりする交流館とすれば、県内でも珍しい施設となって蘇ると思う。 ・各施設を適切に周遊するルートマップの作成 ・周辺施設を効率よく活用するため、スタンプラリーを行ってはどうか。 ・四国村まで来て、屋島山上に登らない人のために、四国村の半券で、通行料半額などのキャンペーンを実施する。 ・源平の里を盛り込んだ広域パンフレットの作成。 ・JR屋島駅に降り立った人で、“イサム・ノグチ”の石の庭園を訪れる人に“石の民俗資料館”を勧めています。作品もさることながら、石材切り出しについて知ってもらえるならば、喜んでもらえると思う。あわせて“山田屋うどん”と何とかタイアップさせる方法があればよいと思う。 ・意見はあるが書ききれない。

12	JR高松駅観光案内所, JR屋島駅の観光案内所, 屋島山上観光案内所との連携ネットワークについてご意見をください。 ※屋島山上観光案内所は, ガイド案内所, 売店横のフリースペースのことです。
	・観光案内所は現地の入口なので重要なポジションである。そのためには、もう少しインパクトのあるお洒落な案内所にリニューアルをすることが望ましい。 ・瀬戸芸で多国の観光客が来県しているため、やはり国際語である英語ガイドに力を入れるべき。 ・ボランティアガイド案内をもっと充実(平日も1～2名が常駐)し、高松駅や屋島駅の観光案内所は屋島山上にボランティアガイドが居ることを積極的に広報すべき。 また、売店横のフリースペースは、観光客が入りにくくなっている。 ・当財団では、高松駅観光案内所を、高松市より受託し、管理運営している。高松駅観光案内所は、すべてがアルバイトでの1年間雇用と、連携する前に個々の体制強化に取り組む必要がある。そのような状況の中でも、他の2つの観光案内所とは、屋島について利用者からの問い合わせや苦情等の情報提供を、相互に電子メール等でやりとりすることは十分可能であると思う。 ・ネットワークの一元化を図る。 ・山上ガイド案内所の中塚氏はよく学んでおられます。その知識をもって大学生ガイドなどを育成すべきだと思います(栗林公園には小学生ガイドが育っているとか。) ・高松空港と屋島観光の連携がない(積極的に観光を進めるならば、直行バスの運行も考慮してはどうか)。
13	JR屋島駅観光案内所, 屋島山上観光案内所の設備と機能についてご意見をください。 ※屋島山上観光案内所は, ガイド案内所, 売店横のフリースペースのことです。
	・観光案内所は誰でも入りやすい環境を整えるべきであり、屋島の観光パンフレットもコンパクトで誰でも手が届くスペースをつくることが肝要である。 ・来訪者向けにJR車内に〇〇案内所がある旨を知らせるをする。 ・JR屋島駅観光案内所は、ボランティアで、観光案内のほか、レンタサイクルの管理など、大変お世話になっていると思う。 ・ネットワークの一元化を図る。 ・屋島山上に車で上がるとゴーストタウンのような感じがするときがある。 ・基本的な観光案内所の設備を、①国際的な観光を創造する上で、5カ国の言語によるガイドブック配布 ②通訳(ボランティア)登録制度の有効活用など ・ボランティアガイド案内をもっと充実(平日も1～2名が常駐)し、高松駅や屋島駅の観光案内所は屋島山上にボランティアガイドが居ることを積極的に広報すべき。 また、売店横のフリースペースは、観光客が入りにくくなっている。
14	屋島山上観光案内所の再整備について場所や内容, 運営主体についてご意見をください。 記載例:ドライブウェイに委託が望ましい, 場所は駐車場周辺が望ましい
	・ケーブルカーが再開できないのであればリフト設置および環境整備を検討する。 ・JR高松駅, 屋島駅, コトデン屋島駅へ出向き公共交通機関を利用した場合の利便性を調査してみた。時刻表を始め屋島観光案内についての掲示物が解り難い。 ・タクシーを進めてくれるのはあり難いのだが、学生やシニア観光客には、費用としてかなり高額なので不親切である。 ・知識と熱意を持った「屋島のコンシェルジュ」(仮称)を養成し、その人たちを中心にNPO法人を結成して委託する。 ・屋島山上で観光客が集まる頻度が高い場所、記載のとおり駐車場周辺がよいと思う。 ・ビジターセンターを、駐車場に隣接した場所に建設し、そこに再整備をすべき ・ビジターセンター(情報提供拠点施設)機能と観光ガイド案内は別にする→同じ場所とすることはOK ・場所は駐車場近く, レストセンター跡地付近 ・運営主体はドライブウェイ等企業に委託が望ましい。×2 ・元気YASHIMAを創ろう会は、JR屋島駅(土曜日10時半集合)に来られる方のガイドを行っている(JRパンフレットに案内あり)。山上のガイドさんの邪魔にならないよう、しかし、協力はおしまないつもりです。共通のガイドブックなどがあれば、混乱がなくなると思います。【相引川の説明】源平勝負がつかず相引いた、潮が引くとき左右に引いた。【血の池の説明】源氏が血刀を洗った、火山性の赤土が溶け出す など 観光地特有のユーモア, 笑いも必要ではないか。
15	屋島山上でのガイド案内などについてご意見をください。
	・よくわからないが、施設を中心としたものでなくそこにあるもの(例えば一等三角点や遊鶴亭から降りた辺りの洞窟等)について、行かないまでも説明に加えてはどうか。 ・シニアボランティアガイドの養成に尽力する。 ・瀬戸芸のこえび隊のようなボランティアガイドの育成に力を注ぐ。 ・大学生のボランティアガイドに対しては、単位を与えるなど行う。 ・地元市民は屋島の価値観を認識するのに時間を要するので、県外からの移住者より募集し、養成を行うのが一番早い方法だと思う。 ・現在の観光ボランティアガイドは、スキルと熱意に差があり過ぎる。ひどい人になると「暇だから来ている」と公言しているガイドもいるし、ガイド登録していても全然来ない人も居る。将来的にはボランティアガイドや元気YASHIMAを創ろう会等でガイド歴5年以上の知識と熱意を持った「屋島コンシェルジュ」を養成すべきである。 ・近年では、小規模化が進み、すべての方にガイド付きの観光案内ができないのが残念であるが、これを補完するのはビジターセンターの役割であると思う。 ・今の建物の状況では、観光客も積極的に依頼しにくい。 ・新しい案内所ができるのを機に、小～大学生もガイドとして協力要請。 ・観光案内マニュアルの整備
16	屋島山上の民間事業者について何かご意見感想はありませんか？
	・屋島山上の民間業者はこのような状況になるまで自助努力をしたのだろうか。 ・本当に屋島の活性化を願っているのであれば今後の活性化計画に大きく役立つ事業者に権利移譲を検討して頂きたい。 ・その人たちにも生活と暮らしがあるので軽々には言いにくいが昔からの観光地みやげ店という(悪い)イメージから脱却すべきかな? ・屋島振興を図る上で、屋島山上の民間事業者と常に連携・協力体制を構築していく必要があると思う。 ・サービス向上(品物, 値段, 態度, 若者子供向けへの工夫) ・行政・他団体に頼るばかりでなく、観光協会として活性化につながるイベントを！ ・観光協会独自在無理なら、諸団体などに協力要請してでも独自イベントを！ ・魅力ある屋島の再生に向けて、観光協会としての意志確認・・・最後のチャンス。 ・ホテル, みやげ物売り場は、最先端の観光セールスマンです。お客様がまた来ようと思う接客(うどん, みやげもの, おでん等の品質と価格も)が必要である。よければ口コミで屋島が宣伝されるが、逆だと屋島へ行ってみたいと思っている人たちに、思いとどまらせるような働きになる。…山上観光協会と話し合いが大切
17	屋島山上の便益施設についてご意見をください。トイレ, ベンチ, 東屋, 展望台, 照明など口
	・トイレは全て洋式とし、障害者対応のユニバーサルデザインとする。 ・ベンチは木彫色としデザインもユニバーサルデザインとする。 ・展望台は常に塗装を点検し、見苦しくないようにする。 ・照明は増灯してほしいが樹木など自然環境に影響が少ないように配慮する。 ・夜間の照明がもう少し明るければ夏の夕涼みがてら行きたいと言う人も多い。 ・源平の古戦場跡が見渡せる東回りにトイレがない。 ・旧ホテル甚五郎前に日陰がないので東屋があれば源平古戦場のガイドもゆっくりできる ・特に便益施設については、清潔感がなければだめなので、常に清掃には気をつけるようにすることである。 ・清潔かつ明るく、洋式トイレ・車いす用トイレの新(増)設 ・駐車場で降りて、まず、どこに向かって行けばいいのかわからない。ビジターセンターは、駐車場からわかりやすい場所に設置すべき。夜道が暗く、店頭の危険がある。 ・トイレが談古嶺に1か所ほしい ・看板の統一, 古い看板の撤去, 必要箇所の新設 ・看板などの傷み, 破損, さびなどは費用をかけても、時々、清掃修理にが必要。 ・統一感のある、屋島のビジュアルをアート化して、どこかにペインティングして明るいwelcomeを！

18 遊歩道や遍路道についてご意見をください。☒現存する遊歩道, 遍路道に限定☐ ・遊歩道を幼児や老人も楽しめるようにカートを貸し出す。 ・遊歩道に自転車レーン・ウオーキングレーンを設置する。 ・今年は毛虫が大発生し、遊歩道の木という木から毛虫が降りてきたので、迅速に処理してくれる係が欲しい。 ・遍路の人々を誘い込む工夫が必要である。 ・遊歩道も遍路道も人が歩くところなので、近辺の道の整備を常に心がけることである。 ・八栗寺へ行く遍路道の整備・・・遍路道としては危険が多い。 ・里山登山としての古道などの整備 ・南・北嶺への遊歩道の整備・維持管理 ・イノシシ、サル、スズメバチ等の被害にあった時の対策を考える必要がある(案内所に菓を置くことや看護師(OB, OG)の常駐の可能性をさぐる)。 ・獅子の霊巖に最短で行くのに、屋島寺境内を通過しなければいけないのは、バリアフリー的にも、コース的にも望ましくなく、屋島寺を迂回するルートを1本整備してはどうか。また、千間堂と北嶺付近を整備してほしい。
19 廃屋跡地の公園整備についてご意見をください。☒屋島レストセンターYC跡地, 屋島館跡地, 松観荘跡地, ホテル源平跡地, 檀ノ浦旅館跡地, 与八茶屋跡地☐ ・廃屋跡地を全て公園にするのは如何なものかと思う。 ・屋島を活性化させるインフラの設置も重要な課題の一つである。 ・高知市の牧野植物園のような集客力のあるインフラを設立する。 ・メンテナンスやランニングコスト等を考えると当面は芝生広場でよいと思う。 ・将来、利用度が高いであろう小学生等の意見も参考にすべき。屋島三小学校から「どんな屋島がいいか」作文を募集しよいものは表彰し、大いに参考にすべし。 ・多目的広場となる公園整備は早急に取り組み、コンパクトな新しい屋島での住民、観光客を巻き込んだゾーンを形成してほしい。 ・小さい子どもが喜ぶ施設(電気自動車, 遊具, 迷路) ・源平の戦いの学習館新設。 ・ビジターセンターは、屋島レストセンター跡が望ましい。 ・屋島館や緑地公園を設け、一部は新屋島水族館の拡張に。 ・芝生公園の他、ばら園、あじさい園、はぎ園、等々を設ける。 ・屋島館・松観荘跡地は、公園に整備することは賛成で、絶好のロケーションポイントであるため、イベントもできるスペースとしてほしい。また、子ども向けの遊具の設置や桜を植える。
20 現存する廃屋についてご意見要望はありませんか？☒血の池茶屋, ホテル甚五郎, 屋島ケーブル山上駅舎, 宮路商店, ケーブル軌道☐ ・観光地であることから、いつまでも廃屋を残しておくのは、どうかと思う。ただしケーブル山上駅舎等は、そのレトロな雰囲気から十分活用できるのではと考えられるので、ご検討いただきたい。 ・再利用ができればグッドだが廃屋は景観を害するので撤去することが望ましい。 ・廃屋撤去に関して経費および権利関係が大きな支障になるのか。 ・新生屋島をアピールするために、古く危険なものは早く除去し、保存すべきは早急に対策を立てるべきである。 ・現存する廃墟について、撤去し更地にできるものかどうかはよく検討しなければならない。 ・ケーブル軌道の登山道への転換。 ・血の池茶屋を撤去してビジターセンターの候補地とする。 ・甚五郎は、早急に撤去。危険が多い。 ・ケーブル山上駅舎は撤去。 ・ケーブル軌道は、遊歩道として活用。 ・ケーブル駅(上下)は、ケーブル道(階段)を整備し、歩道にできれば、ギャラリー展示会場等で再利用の可能性があるのではないか。ケーブルカーもさぬきこどもの国の電車のように再利用すべきである。 ・屋島をランドマークにするというコンセプトで、関連性を持たせた内容の跡地利用を期待する。 ・立地場所、耐震性などの様々な問題があるが、リノベーションして有効に再利用できるならばした方がよい。 ・友好な再利用方法が見当たらないのであれば、早々に取り壊し、自然に帰すべき ・ケーブル軌道から歩いて山上駅舎にいけるとよい。
21 屋島山上の臨時駐車場についてご意見をください。 ・現在は臨時駐車場を使用するのは年に数回だが、新生屋島では多いに活用できるようにして欲しい。 ・臨時駐車場が必要な日は、ある程度前もってわかっている。余裕を持って確保に努める。 ・血の池の向かいの奥の臨時駐車場がいっぱいになる時は、ドライブウェイ入口閉鎖などで対処できるが、その時あふれる自動車があれば、四国村横の駐車場まわりに新しく駐車場を整備するなり、他のところを廻ってもらうなどの対処が必要。 →ドライブウェイ入口付近の整備・案内
22 屋島のふもとの臨時駐車場などについてご意見をください。☒登山者向け☐ ・駐車場があればもっと登山者が増えると思うが、管理が難しい。 ・陸上競技場が完成後は、利用する。→ケーブル麓駅前道路, 四国村駐車場 ・屋島小学校上の遍路道添いに、無料駐車場の整備(団地内空き地確保の場合は、案内板が必要)や長崎の鼻登山口で道路脇を整備し、駐車スペースを確保する。 ・駅から登り口まで少し距離があるので、近くに駐車場があればよい。
23 今後、屋島山上に整備する仮称ビジターセンターの内容や機能や規模, 場所について要望ご意見などありませんか？ ・屋島の歴史や文化、自然環境保護のための拠点としての機能やスタッフを有するものであってほしいと思う。 ・ビジネスセンターの機能としては、観光に留まらず瀬戸内全般、四国全般の情報が発信でき、研修なども行える施設を望む。 ・中途半端な施設は、長いスパンで見れば結果として中途半端で役立たないものとなる可能性が強い。 ・施設のどこかに屋島と源平合戦(源氏(笹りんどう)と平家(揚羽蝶))または紅白の幟旗をデザインしたものを設置。 ・屋島および香川県や高松市をアピールする役割が必要。 ・観光とはその地の風物、産物、人物を見るであり、ゾーンを設け、風物、産物を紹介するとともに、コンシェルジュを置く。 ・エントランス機能、情報提供機能、サービス提供機能、維持管理機能が必要であるが、観光案内は別とする。場所はレストセンター跡、次に血の池茶屋跡。 ・他のビジターセンターを視察し、よいところ、悪いところを見極め、無駄を省く。 ・2階に宿泊研修センターを設けるとともに、学べるところを併設すれば、屋島少年自然の家と一緒に屋島を海と山を学ぶチャンスを与えることができる。 ・誰でも気軽にに入れて、屋島の歴史文化等を深く知ることができる機会を提供できるような施設にしてほしい。
24 ビジターセンターの運営主体についてご意見はありませんか？記載例:公営での運営が望ましい☐ ・五色台同様の国主体か、または公営での運営が望ましいと考える。 ・民間感覚の経営が必要。 ・当初の数年间は、高松市が運営。その間に一定の基準以上の者(例えば5年以上屋島に関してボランティア活動をして、市の行う試験に合格した)コンシェルジュで運営する管理者組合を養成し委託する。 ・公営が望ましいが、無理ならドライブウェイ等の民間企業。 ・屋島少年自然の家と一緒に運営。

25	屋島山上観光振興，屋島の再生についてご意見があればお書きください。 ・観光を中心としながら，自然環境保全のための里山歩きや歴史，文化を学べる講座等年間を通じたイベントを行ってはどうか。 ・瀬戸芸などの集客層を分析すると30歳までの女性層が70%を占めているため，屋島観光を始め県内観光地における今後の活性化は若い女性にターゲットを当てて企画することが重要である。また，若い女性が来るようになると男性もおのずと増加する。 ・シニア層観光客に関しては何よりも歩かなくても観光ができるというインフラの整備が必要である。徒歩時間は20分以内が限度となる。そのためには，カートの導入や人力車，籠，電動歩道等も検討する必要がある。 ・来年は瀬戸内海国立公園制定80周年と四国霊場1200年の記念年であるため，各分野において多様な企画を計画中である。単独団体の単独企画では発信力が弱いので屋島活性化のために他団体とのコラボを推進して屋島を宣伝していくことが重要。来年は大きなチャンスの年である。 ・昔から屋島が持った魅力や文化を守りつつ，観光客の体験型やイベント参加型の観光にシフトしていくべきかと思う。 ・屋島の特性や魅力を県内外に広く発信し，集客力のある観光地として再生するため，パフォーマンスや多種多様なイベントを香川県との連携により屋島山上で実施。 ・屋島山上の観光等に携わる人々の振興に向けての本気度が必要である。 ・屋島の住人が真剣に，屋島を再生させる，熱意，強力意志が不可欠である。 ・屋島市民ファンクラブの設立。 ・屋島ファンドの設立。 ・民間の協力を得ないと大きくは進めない。 ・レオマ的な遊園地を造れば人は来るだろうが，屋島はそういう観光地になってほしくない。 ・観光振興を目指すのであれば，これからは外国人観光客を意識した，受入体制づくりが重要だと思う。 ・通行料金の廃止。
26	皆様の所属する団体等で実施している屋島活性化に向けた情報発信の取組があればお書きください。また，今後実施を検討している検討している取組があれば，あわせてお書きください。 【香川県】新たな取り組みは特に考えていないが，来年の瀬戸内海国立公園指定80周年に合わせて，既存のホームページ「香川の環境」内において，屋島でのイベントを紹介していくことにしている。また屋島でのイベントについては，近県からも参加者を募る予定であることから，チラン等何らかの取り組みができればと考えている。 【高松商工会議所】各種会合の参加で意見を述べるに至っているが，共催的なもので協力できるものがあれば前向きに考えたい。 【香川経済同友会】 ・屋島山頂におけるイベントの動員に尽力している。 ・四国・西日本・全国大会・交流会においてエクスカーションに入れるなど宣伝に努めている。 ・写真入名刺を推進中。 ・ライオンズクラブ国際協会336A地区においても上記同様の取り組みを継続中。 ・サンポートおよびクレメントホテルを会場に9月15日開催決定の日本ライオンズフォーラムにおいても1500人の参加者に県内観光地をエクスカーションに加え 【高松コンベンションビューローの取組】 1 事業主体：八向産業株式会社 屋島ファンクラブ 事業名：屋島Midoriプロジェクト 源平屋島オープンテニス 期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日 事業内容：約700万人を超えるテニス人口へ告知し，源平屋島など観光名所をセットにしたテニスイベントの開催。源平屋島と題し，ベテランの部，国際ジュニアの部と広げていく。屋島の森プロジェクトの一環として，ジュニアテニスプレーヤーの将来の夢を託したオリーブの植樹会も行う。大会開催期間中は，「源平屋島ひだまりマルシェ」を開催しテニスをしなくても楽しめるイベントを開催し，今までにないテニスイベントとする。 2 事業主体：OSAKA石あかりロード実行委員会石あかりロード実行委員会 事業名：むれ源平石あかりロードin OSAKA 期間：毎年12月に大阪・中之島公園をメイン会場に開催されている「OSAKA光のルネサンス」は，期間中に300万人が訪れるビッグイベントである。そこに，「むれ源平石あかりロード」を登場させ，クリスマスにわく大阪の中心で，石あかりロードへの来場促進と石製品の販売活動を行い，『石あかり』，『庵治石』，『香川・高松』をPRする。 3 事業主体：JAPAN石あかりコンテスト2009実行委員会 事業名：JAPAN石あかりコンテスト2009 期間：平成20年9月1日～平成21年3月31日 事業内容：『むれ源平石あかりロード』開催にあわせ，全国から石あかりの作品を募集し，『JAPAN石あかりコンテスト』を開催。募集を通じて，高松市をはじめ庵治石，牟礼町，庵治町を発信し，高松市のPRや牟礼・庵治地域の振興に寄与することを目的とした。 募集広報としては，日本石材工業新聞（月2回発行），月間石材新聞（月1回発行），日本石材産業協会（全国1，200社）が協力し，石材業界の全国トレードショー（6月中旬開催）にブース出展し，石あかりコンテスト出展募集および石あかりロードや高松のPRを行った。 4 事業主体：榊桜製作所 事業名：銀座桜ショップを高松観光のキーステーションに！ 期間：平成20年9月1日～平成21年3月31日 事業内容：銀座桜ショップにおいて，ジョージ・ナカシマの作品等を通し，広報活動を実施し，アートの切り口で，高松への集客および知名度アップ等に貢献する。銀座桜ショップのパンフレット等の作成（高松観光内容含む。），銀座桜ショップでの高松発の展示会・後援会や高松への誘致観光バスツアーの実施。 5 事業主体：元気YASHIMAを創ろう会 事業名：「吹け！元気やしまの風」 期間：平成20年12月1日～平成21年3月31日 事業内容：元気YASHIMAを創ろう会等のボランティア団体がJR四国の企画する旅行商品において，屋島，牟礼，庵治地区の観光地を案内するとともに，屋島駅を訪れた観光客を接待することにより，高松市をはじめ屋島やその周辺の魅力を全国に発信し，屋島に再び“元気な屋島の風”を吹かせることとする。 なお，今後の展開として，地域コミュニティ協議会の協力を得て，事業を拡大していく予定である。 【元気YASHIMAを創ろう会の取組】 ○元気YASHIMAを創ろう会の会報，10号（記念号）を来年3月に発刊します。屋島の活性化に向けた提言，我が会への助言など，広く募集します。 ○北嶺の活用 ・【春】4～6月，【秋】10，11月限定のガイド付観光・史跡ウォーク ・毎月水曜日ごとに，シャトルバス（JR屋島駅発10：37）で登山，北嶺まで足を延ばし，古戦場，屋嶋城，屋島寺を巡り（屋島山上駐車場発14：05）のシャトルバスで下山予定（要予約・参加費200円 保険他）。→元気YASHIMAを創ろう会で検討中で，随時，他団体とのタイアップを考えている。 ○元気YASHIMAを創ろう会では，JR屋島駅の観光案内（土，日，祭日）を行っているが，毎日できればいいと考えている。しかし，それだけの力がない（コトデン屋島駅も何とかしたいが，それも力不足）。 ○屋島小学校の山上，八栗の源平古戦場案内等，ここ数年続けているが，この方面でもう少し協力の可能性有（屋島東小，屋島西小，古高松小など） ○各種会合で意見を述べるに至っているが，共催的なもので協力できるものがあれば，前向きに考えたい。